
後続くもの

十六夜 あやめ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
後に続くもの

【Nコード】
N4764N

【作者名】
十六夜 あやめ

【あらすじ】
僕はきつと、ずっと一緒にいたかったんだ。
あの日、星を見上げながらアルデバランは思った。

僕はきつと、ずっとずっと一緒にいたかったんだ。
そう思ったのは僕自身なんだ。

冬の星空の下、僕は一年上の九条先輩くじょうと天体観測にきていた。
寒くないように体をくつつける。

九条先輩の左手が僕の右手を握っている。
やわらかくて、あたたかい。

九条先輩は僕の顔を見て楽しそうに言った。

「前回の復習よ。プレヤデスとは、何でしょう？」

「えっと、おうし座の？すばる？ですよね？」

「正解よ。じゃあ、同じおうし座の、プレヤデスよりも少し遅れて
日周運動をしている星の名前は何かしら？」

僕は考えた。頭の中の天体をぐるぐる回す。けれども見つからな
い。

様々な星が流れ星のように流れ、消えていく。

「わかりません」

「ダメね。しつかり復習しなくちゃ。答えはアルデバランよ」

「初めて聞きましたよ」

「そうだったかしら？ 前に言ったと思うのだけれど。

それじゃあ今日は、プレヤデスとアルデバランについての物語よ」

僕の星に関する知識はすべて、九条先輩から教えてもらったものだ。

横に三つ並んだのが目印のオリオン座

その下でうずくまっているうさぎ座

ちょっと変わったのではエリダヌス座

僕は横目で九条先輩の顔を見ると、九条先輩は僕をじっと見ていた。

そして静かに口にした。

「アルデバランは可哀相だ。ああ、可哀相だ。本当にかわいそうだ……。

僕も可哀相だ。ああ、可哀相だ。本当にかわいそうだ……。
アルデバランはこれから僕の後にくるだろう。

ずっと僕の背中を見続けるだろう。

何年も何年も、僕の背中を追いかけるのか……

同じ日々を送れないのに、ついてくるのか。

ああ、どうか……。」

九条先輩は泣いていた。

「九条……先輩……？」

「これは、プレヤデスの気持ちよ。
アルデバランは通称？すばるの後星あとほし？と呼ばれているわ。
まるで私たちみたいね。先輩と後輩の関係によく似ているわ」

僕は九条先輩の語る、創作星物語が好きだ。

いつまでも聴いていたい。

ずっとこのまま、一緒に星を眺めていたい。

僕はこの時間が大好きだ。

なのに……今日は、これ以上聴きたくないし、居たくない。

「私はあなたより一年先に卒業してしまうわ。会えなくなるのは寂しいけれど、絶対についてきてはダメ」

「えっ……」

「あなたはあなたの道を進んでほしいの。私はいままで、あなたを連れまわしてしまったわ。勝手なことを言っているかも知れない……。けれど、お願い……」

僕はきつと、ずっと続くと思っていたんだ。

幸せな毎日がずっと……。

僕の頬に九条先輩の手の平が触れた。
指が震えてる。

「僕は、アルデバランになってはいけないんですか……」

九条先輩は小さく頷いた。

僕はきつと、忘れることはないだろう。
いつまでも残っている。この温かさが

ありがとう

(後書き)

読んでいただきありがとうございます。
よろしければ、感想などをいただけると幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4764n/>

後に続くもの

2011年1月27日15時02分発行